

平成 19 年度 実験・実習技術研究会に参加して

開催日 平成 20 年 3 月 6 日（木）～ 7 日（金）

会 場 徳島大学 大学院ソシオテクノサイエンス研究部 総合技術センター

参加者 第二技術室 山田 隆昇、第二技術室 小川 勇治

平成 19 年度 実験・実習技術研究会が徳島大学で開催され、全国の大学から 283 名、研究所 13 名、高専 71 名の計 367 名が参加しました。福井大学工学部技術部より 2 名が参加しました。

第一日目は、徳島大学工学部創成学習開発センター長 英 崇夫教授の特別講演があり、その後、3 会場分かれて口頭発表（12 件）が行われ、大変活発な討論が行われました。引き続き 2 会場にてポスター発表（104 件）が行われ、発表者との大変活発な意見交換がなされました。夕方には技術交流会が開かれ、徳島大学長の挨拶があり本場の「阿波踊り」も登場し、お互いの技術開発の苦労話など和やかな懇親会が繰り広げられました。

第二日目は、一日目に引き続き口頭発表（48 件）が行われ、私には、身近な実験・実習発表テーマが多く、今後の技術業務や開発に大変有意義な勉強となりました。



徳島大学工学部創成学習開発センター長 英 崇夫教授

特別講演「進取の気風を育む創造性教育」ー徳島大学工学部創成学習開発センターの活動ーが大変興味深かったので、ここに資料と講演の一部を紹介します。

「進取の気風」とは“自ら進んでことをなす”ということで、今日の学生は丸暗記で覚える力はあるが質問をしない、“わかる”という意識を欠いている、“わかる”ということは、状況を絵に出来、自分の言葉を文章にして他人に説明できること。

1. 大学で学ぶべきもの

大学で学ぶべきものは「学力」と「人間力」である。学力は文字通り学ぶ力で、人間力は社会の中で活躍する力である。学ぶ方法を究めて実践することが大切である。プロジェクト活動で体験を積み、成果を他人に説明することによってこれらの力がつくであろう

「学力」：学習に対する興味をもち、自学自習の力、新しい知識を獲得し構築する力、基礎的な知識を得る。

「人間力」：人間として前向きに、自主的に集団に溶け込みコミュニケーションができる。

「教育と学育」：どういうふう to 学ぶのか、生きた知識や自由自在に活用できる知識、教員は学

生を教え育てる、学生は学ぶ

2.創成学習開発センターと学生プロジェクト

徳島大学創成学習開発センターは平成 16 年度に創成された。その理念は「自主」、「共創」そして「創造」である。

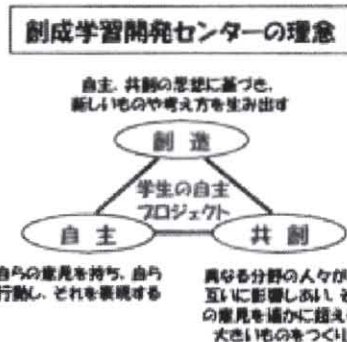
プロジェクトメンバーは自主的な活動でこの理念を実践している。たたら製鉄、意匠デザイン、LED、WEB デザイン発掘などの活発なプロジェクトを含め、毎年 15,16 件が活動している。順調なプロジェクトがある一方、活動の中にはいろいろな問題点が存在する。

講演の中で、学生自主プロジェクトの例を示され、「たたら製鉄プロジェクトでの小刀作り」では、学生が理論と実践がこんなに違うことを知り、事実だけを捉え論理的思考に基づく計画力が欠け、活動が止まってしまう、問題に突き当たったとき、知らないことに対して対拠不能になるケースがしばしば見られた。我々も最初の計画がいかに大事であるかを考えさせられる。

3. プロジェクトマネジメントの必要性

プロジェクトをうまく運営するために、計画力と批判判断力を育成することが必要である。計画、実施、評価からなるプロジェクトマネジメント能力をつけなければならない。5W1H を徹底的に考える計画力支援ツールと Plan、Do、Check の 3 機能を分担して互いに批判・評価しながらプロジェクトを進めるワーク手法を取り入れたプロジェクト能力育成を計画している。学生自らの創造的な活動を支援するための優れた手法を学生とともに完成させたい。

講演の中で強調されていたことは、「自分の意見を持つこと＝考えを持つこと・他人に伝えること＝コミュニケーション力：真の国際人」、「学ぶ力、自らが考える＝学力、社会に通用する力＝人間力」とのことでした。私自身にも技術支援での心構えとして再認識させられました。



学生自主プロジェクトの例



口頭発表会場



プロジェクト活動のための計画概念の階層構造



ポスター発表会場

